

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月6日
札幌市立札幌北中学校

1 本年度の重点目標

『生命を尊重し逞しさと豊かさをもって生き抜く人間の育成』

- 知性を磨き豊かな創造力をもった生徒 知性の練磨 ○徳性を高め健全な社会性を身につけた生徒 徳性の涵養
- 心身を鍛え健康で実践力をもった生徒 心身の鍛練 ○美しさを求め豊かな感性をもった生徒 情操の高揚

2 本年度の経営方針

地域に根ざした学校、活力潤いのある学校をめざして、全職員が専門職としての自覚と誇りをもち教育活動を推進する

1. 教職員相互の協力体制を基盤とする学校経営(チーム札幌北中)
2. 生徒が充実感・所属感・自己肯定感を感じる教育活動の推進
3. 保護者・地域・関係機関との連携による学校教育の充実
4. 本校の学校文化を継承するとともに特色のある学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育目標	目指す学校像が周知され、特色ある教育活動が行われている。	A	学校評価アンケートの結果、生徒の肯定的回答が89.6%、保護者、教職員は90%を超える結果であった。札幌市教育研究推進事業で小学校と具体的に連携を試みた初年度としては課題が残るが、今後も教育を地域全体で取り組むことができるよう小学校をはじめとして地域や各機関との連携の充実を図る。コロナ禍後の教育活動、行事の再開や日常生活の充実を引き続き目指し、学ぶ力・豊かな心・健やかな体の育成に努め、学校教育を推進していく。	A	A
	自ら考えて、その場に応じた正しい行動ができる生徒の育成に努めている。	B	学校評価アンケートの生徒からの肯定的回答が89.9%最も多かったが、保護者からは84.1%との評価であった。保護者からの評価が低くなった原因として、「場にあふさわしくないと指導したことが生徒の考えを否定した」と捉えられているのではないかと考える。引き続き、自ら考え、場に応じた行動ができる生徒の育成に努めている。生徒が自ら考え行動していくことができるよう、成長を実感できるような指導を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		叱らなければならない場面もあると思うので、生徒が納得するような叱り方を心掛けるとよいのではないかと。			

(様式2)

学習活動	各教科の評価・評定は生徒の学力や到達度を適切に評価している。	B	学校評価アンケートの結果、生徒、保護者は肯定的回答が90%を超える結果であったが、教職員は 80.0%であった。学年間・教科間でその指導とともに見直しを図り、信頼性、客観性、妥当性のある評価・評定に努めてきたが、更に良い方法を模索していることがうかがえる。今後も授業をはじめ、適切な評価をしていけるよう、教職員の能力向上に努める。	A	A
	将来の職業や進路について適切な指導が行われている。	B	学校評価アンケートの結果、生徒からの肯定的回答は 83.0%、保護者からの肯定的回答が 78.8%、教職員からは 84.0%であった。総合的な学習の時間での昨年度から始まった取組に対する理解が教職員に十分に浸透していないことがうかがえる。様々な場面で日常的に進路に対しての意識を高めるよう取組を進め、社会的・職業的に自立するための基礎的・汎用的能力を育てていく。	A	A
	学校の授業は、生徒に意欲をもたせ、理解が深まるように工夫されている	B	学校評価アンケートの結果、生徒、教職員からの肯定的回答は85%を超えたものの、保護者からの肯定的回答は、84.0%であった。達成感や自己効力感を味わうことができる場面の設定と、いま求められている学力の育成、特によりよく問題を解決する資質や能力を育むことが課題である。授業では自ら意見を発表する場面を多く設定し、引き続き指導の工夫・改善に努めていく。	A	A
学校関係者評価委員 による意見	具体的な進路希望をもてずにいる子どもが増えていて、自分の希望を叶えるというよりも成り行きに任せていることが増えていると思う。おそらく保護者も困っているのではないかと思う。				

(様式2)

生徒指導・活動	生徒理解のため、適切な相談活動が行われている。	A	学校評価アンケートの結果、生徒、保護者、教職員とも肯定的回答が85%を超える結果であった。生徒の発するサインに気付き、声を掛けることができるよう、日頃から教育相談等を通して生徒理解に努め、積極的な情報収集や共有によって、適時に対応できるような生徒指導を行う。	A	A
	生活上の問題について、適切に指導されている。	B	学校評価アンケートの結果、生徒からの肯定的回答が84.6%、保護者からは79.7%、教職員からは84.0%という結果であった。同時多発的に様々な問題が発生している中、学校全体での共有方法を工夫し、子どもがいじめ問題の解決に向かうことができるように取り組んでいく。	A	A
	部活動や特別活動(ボランティアや福祉)が活発である。	B	学校評価アンケートの結果、保護者、教職員からの肯定的回答は85%を超えたものの、生徒からの肯定的回答が83.0%であった。コロナ禍の影響で実施できなかった活動がようやく再開してきているが、行事や日常生活において生徒の自主的な活動を増やせるよう考えていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	部活動への加入率が高い頃は学校が落ち着いていたが、現在はどうかだろうか。部活動の外部指導者の利用状況は現状どうなっているか。				

その他	生徒の日常の様子が伝わるように、学校と家庭との連携に努めている。	B	学校評価アンケートの結果、保護者、教職員とも肯定的回答は85%を超えたが、生徒からは84.9%であった。生徒からの肯定的回答が三者の中で最も低かったのは、家庭で学校の話あまりしていないと生徒が自己評価した結果と考えられる。今後、更に学校便り等の充実やすぐーる(連絡システム)の活用などでの連絡を引き続き行い、学校生活の日常が伝わる工夫をしていく。	A	A
	学校の施設・設備が、適切に活用されるよう整備が行われている。	B	学校評価アンケートの結果、生徒からの肯定的回答は85%を超えたものの、保護者からの肯定的回答が83.3%であった。生徒数に対して校舎整備が追い付いていないところを何とかカバーしているが、保護者からは生徒数に対して校舎のキャパシティが不足していると指摘されている。安全で安心な学校生活を送るため、様々な対策を検討し、実施していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	時間内にトイレを済ませられないという声は聞こえてくる。家庭で使用しているトイレがふたの開閉や水を流す部分が自動化されていることが増え、学校のトイレに抵抗を感じる生徒もいるかもしれない。				